

不思議ふしぎ!?

見覚えあるマーク



徳林庵 左手前が井戸屋形。
中央の宝形屋根が山科地藏堂。手前の道が旧東海道

四月二十日は郵政記念日。
山科の四ノ宮に徳林庵というお寺があります。南禅寺派の禅寺で、小野篁が刻み、都への出入りに置かれた六地藏の一つ、山科地藏が安置されていることで知られています。寺の前はかつての東海道。この道を近江側に越えたところに天下三関の一つ逢坂関があり、この関より東を東国といいました。つまりこの道は都と東国を繋ぐ大動脈でした。



見覚えのあるロゴマーク

この寺の境内、道沿いに井戸屋形があります。水を受ける水槽の壁には「順番定飛脚 宰領 中 文政四巳年六月吉日」の文字が。そう、この井戸は東海道を往來して人々に手紙や書類を届ける飛脚たちが喉を潤し一息つくために、飛脚を束ねる宰領(親方)たちが寄進したもののなのです。そしてその水槽の外壁にどこかで見かけたマークが……。なんと、これはあの某運輸会社のロゴマークではないですか! でも、待てよ。文政四年って一八二一年。

そんな昔から? いいえ、これはあくまでも飛脚の親方たちが「交通・通信」の象徴として刻んだものです。この井戸が掘られて半世紀後の明治四年(一八七二)四月二十日、前島密の発議により、官営の郵政事業が開始され、一世紀以上経った昭和十二年(一九三七)に日本通運株式会社が設立されます。郵政記念日は飛脚制度から郵便制度に転換した記念日なのです。時の古今を問わず、物流、通信は人々の暮らしを結び支える絆。江戸時代、すでにこのマークが同じ絆の象徴としてここに刻まれていることはあまり知られていません。井戸の東向いの建物にはまた別の飛脚組合の親方たちが寄進した見事な茶釜と竈が残されています。郵便事業や宅配事業が大きな変革を迎える昨今、大切な手紙や品物を運ぶ途次、ここで一服して、お

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに



往來の人々を見守り続ける温顔の山科地藏尊



文化十年(1813)寄進の見事な茶釜と竈

地藏様に祈りを捧げた飛脚たち、そして従業員疲れを癒すためにお金を出し合って井戸を掘り茶釜を据えた雇用者たちの心に思いを馳せてみては如何でしょう。
(京都・清遊の会 堤勇二)

京都
検定

京都観光文化検定試験
京都商工会議所